

日支事變の目的が達成せられ我帝國の使命を實現するの日の遠きにあらざるべきを念ひ所懐の一端を叙して迎年の辭とす。

年 頭 所 感

安 藤 狂 四 郎

茲に、南京陥落後第一の新春を迎へ、度みて竇祚の無窮と國運の隆昌とを慶祝し奉る次第である。

昨夏、偶、蘆溝橋に發生したる支那側の不法射擊事件は、我方に於ては只管隱忍自重し専ら現地解決事件不擴大の方針を採れるにも拘らず、支那軍の暴戾挑戰愈募りて、在留邦人の生命財産の安固を期し難きに至り、遂に、全面的支那事變に擴大發展するに至つた。惟ふに、該事變の因由は、遠く國民政府の徹底的抗日教育に胚胎し、更に、我が國體と絶對に相容れざる容共政策にも關聯するが故に、率直に云へば、皇國日本が萬古不動の國體を擁護して大和民族の生成發展を期すると共に、我が國是たる日滿支三國の提携協力を實現して東洋永遠の平和を確立せんがためには、いづれの日にか、必ずや遭遇し打開すべき宿命的障礙であつたとも云へやう。従つて、皇軍一度起つや、忠勇無双、果敢迅速、北支に内蒙に、江南に、將又、制海權、制空權の確保に、到るところ、赫々たる武勳を樹て、優秀なる戰果を納めて、早

くも、廣大なる北支内蒙を殆ど平定すると共に、江南に於ては、上海、蘇州を相繼いで攻略し、遂に、舊臘十三日、首都南京城を完全に占領するに至つた。これ固より、御稜威輝く皇國日本としては、必至豫定の勝利となすべきも、天の時と地の利を併有し、難攻不落を誇つた幾重層の堅陣に據る敵の大軍に對し、寡兵克くあらゆる惡條件を克服して、勇奮力闘遂に徹底的大打撃を與へて、首都南京を放棄敗走せざるを得ざらした皇軍將士に對しては、年頭改めて、衷心より、謝意と敬意とを表する次第である。

しかも、皇軍の攻略平定せる地域は、いづれも治安の恢復を見、住民は、翻然として抗日容共の迷夢より覺め、善隣防共の氣運鬱然として勃興し、南京陥落の翌日には、北京に於て、中華民國臨時政府誕生し、早くも東亞安定の曙光を示しつゝあるに反して、國民政府は、僻陬重慶に遷都を決行し、政府要人各地に逃避離散して殆ど中央政府たるの實權を喪失せるにも拘らず、未だ反省改悛の誠意なく、徒らに長期抗戰を豪語して、第三國の救援をこれ希求策謀して居るの實情である。加之、昨冬、日獨伊防共協定の成立せるを始め、我國の西班牙フランコ政權の承認、伊太利の滿洲國承認、西班牙滿洲國の相互承認等、世界に於ける思想戰線は、旗幟一層の鮮明を加へ、防共陣營一段と強化整備を致したるに關聯し、コミンテルンの暗躍は更に熾烈の度を増すべきは必ずしも想察するに難くないのである。従つて、皇軍出征の目的を達成して、東洋長久の平和を確立し、以て世界の平和並に人類の文化發展に貢獻するは、前途尙極めて遼遠であると云はねばならない。即ち、我國現下の情勢は、まさに非常時局中の非常時局であり、上下一體、國民總動員益々時局に對する認識を深め、長期戰爭に對處すべき萬全の施設方

策を講じなくてはならないのである。

そこで、以下、少しく時局と道路行政との關係に付て、所懐の一端を披瀝し、關係各位の御注意を喚起したいと思ふ。

申すまでもなく、土木行政は、産業、經濟、交通保安、衛生等、各方面に互つて、國力を培養し、國民生活の安定に資する、最も重要な部門に屬するのみならず、軍事國防上より見ても、幾多の重要な施設を包含して居る。幸ひ關係各位多年の苦心經營に依り、土木各般の施設は、近年著しく充實整備の域に進み、夫々十分に所期の機能を發揮し、以て國民の信賴を博し、國運の進展に寄與致して居るは、洵に御同慶の至りに堪へない所である。

然し乍ら、土木行政中我が道路の部門は、其の歴史比較的新しく、政府が本格的にこれが改良事業に手を染めたのは、漸く道路法の施行せられた大正九年以來のことである。現在、國道、府縣道等に於て、鐵道のために横斷せられて居る箇所が極めて多く、その平面交叉の除却が、現代の道路改良事業に於ける重要な一項目をなして居ることは、明治以來、政府の陸運政策が如何に鐵道中心であつたかを明瞭に物語つて居る。従つて、從來、路政當局が相當の苦心努力を爲し來つたにも拘らず、道路改良の實績は極めて貧弱にして、國道は延長八千三百餘軒中、既改良區間千六百軒、其の比率約二割、指定府縣道は二萬餘軒中、既改良約四千九百餘軒、其の比率二割四分に過ぎず、鋪裝道路の普及に至つては、餘りにも寥々たるの實情にして、國道に於ては既鋪裝延長九百六十軒、全延長に對する比率一割二分、指定

府縣道に至つては僅かに一千軒比率五分を示すに過ぎないのである。

我國の道路は、延長のみを以て論ずれば、優に世界第三位に在るのであつて、必ずしも、道路の不足を嘆ずるの必要はない。然し乍ら、若し、自動車交通に適する舗装道路に非ずんば、現代の道路と稱するの價値なしとすれば、道路改良事業の實績は前述の如くであるから、路政の前途尙頗る遼遠であると云はねばならない。従つて、近時國運の進展に伴ひ、産業交通著しく勃興し、自動車に依る遠距離輸送の必要日に／＼擴大するや、在來の砂利道を以てしては、到底これが需要に應ぜざる箇所隨所に生ずるに至つたのは洵に當然である。殊に、東亞の安定勢力として、日滿一如の體制を確立強化すべく、生産力の飛躍的なる擴充發展を必要とするに至つては、これが基礎施設の一として、道路改良が重要視せらるべきは云ふまでもなく、又、緊迫錯綜せる國際情勢に鑑み、航空機の異常なる發達に則應して、道路の國防性價値を考慮するときは、愈々改良の急務が痛感されるのであつて、少くとも、東海道、山陽道の如きは、速かに貫通改良をなすべきものと思はれる。従つて、内務省土木局に於ては、昨春以來、我國の産業交通の中心たる關東、近畿、北九州、中京の四地方に夫々道路改良綜合計畫協議會を設置して、飛躍的なる生産力の擴充並に國民經濟の發達に資するところあらんとし、且つ、時局に鑑み、國防的見地よりする道路制度の再檢討並に改良計畫の樹立を急いで居つたのである。

かゝる所に今次事變が勃發し、しかも、それは、國民政府の態度並に複雑微妙なる國際政局に鑑みるときは、相當長期に亘るの覺悟を要する現狀であることは前述の如くである。而して、政府としては、

何としても、戦費の潤澤、軍需品の豊富を第一義として、戦時体制の確立強化を圖るの必要があるのであるから、勢ひ一般國費は、例年に比し相當の減額を見るべきは、蓋し己むを得ざるところである。しかも、時局柄、軍需關係品たる工事材料等の消費節約に付、深甚の考慮が要求せられて居るし、昨春以來の鐵、木材その他の價格騰貴が工事執行上重大なる影響を及ぼすことも、今更云ふまでもない。従つて、昭和十三年度の土木事業は、相當の困難に遭遇すべきを覺悟せざるを得ないのである。

翻つて、一方に於ては、道路改良事業は、前述の如く、大いに進展を要するものがあり、その重要性は、非常時局の故に、捐殺せらるべきものではなくして、返つて、累加増大せらるゝものが相當多いのである。加之、臨時資金調整法等制定の結果、民間の土木建築工事等は著しく抑制せられるのであるから、施設本來の機能發揮を所期する以外に、一般労働者に就勞の機會を提供し、農村方面に潤ひを與ふる銃後施設としても、相當なる道路改良工事を執行する必要があるのである。

此の間に處して、經費の節減と實際の必要との矛盾を如何にして調和し、解決するか、これ非常時局が道路行政擔當者に課した嚴肅なる課題である。我々は、最善を盡して、之が解決に當らねばならぬ。